

今中次磨著作目録

松田 義男 編
改訂 2023年6月1日
2011年7月28日

目次

1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)
2. 論文等(新聞・雑誌掲載)

凡例

- *「1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)」、「2. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次に順に配列した。
- *叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名を< >に示した。
- *単著については、目次構成を【 】に示した。連載評論についても、副題が各回で異なる場合【 】に示した。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1・1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の夕刊に
ついてのみ[夕刊]と注記した。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *連載は、初回掲載に一括した。
- *再録書は、初出の注記として[]に記した。
- *ペンネームの使用は< >に記した。
- *編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- *その他、編者の注記を適宜[]に記した。

本著作目録作成に際しては、「今中次磨先生履歴並びに著作目録及び主要論文」(広島大学『政経論叢』6-3・4、1957年3月)、「今中先生著作目録」(『今中次磨先生業績目録』1964年4月、九州大学政治研究室編・刊)、「今中次磨年譜・遺稿目録」(今中次磨先生追悼記念事業会編『今中次磨 生涯と回想』法律文化社、1982年)を参照したほか、愛知県図書館、大阪市立大学学術情報センター、大阪府立中央図書館、岡山県立図書館、岡山大学付属図書館、九州大学付属図書館、京都大学総合図書館・同経済学部図書室・同人文科学研究所、神戸市立中央図書館、神戸大学社会科学系図書館、国立国会図書館、佐賀県立図書館、昭和館、同志社大学付属図書館・同人文科学研究所、日本生活協同組合連合会資料室、梅光学院大学、広島県立図書館、北海道大学付属図書館より資料閲覧・複写の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

今中比呂志「『今中次磨先生業績目録』(1964年九州大学政治研究室)への補遺」(1981年4月ゼロックス版)は入手できなかった。また、「今中先生著作目録」採録の下記著作は、掲載紙または掲載年月日に誤記があり、掲載を確認できないため、本目録では採録を保留した。

- 一国一党論[「時事小言」]『九州日報』1933年7月9日
- 東亜協同体論[「時観」]『河北新報[夕刊]』1939年7月20日
- 革新と憲法『福岡日日新聞』1940年11月8日
- 南京政府の国際的立場『福岡日日新聞』1941年1月2、3日
- 民族国家建設へー民主主義消費組合の構想ー『信濃毎日新聞』1946年1月2日
- 社会党よ、大衆政党たれ『新週報』1-?、1950年4月10日
- 学生生活への助言『朝日新聞』1957年1月14日[大阪本社版、西部版ともに掲載なし]

1. 著書

『民本主義』〈新時代叢書 第4巻〉石川六郎編、民友社、1919年12月20日【1 民本主義の意義、2 民本主義の歴史的考察、3 民本主義の社会的考察、4 民本主義の価値】

普通選挙主張の政治学的論拠『識者の見たる普通選挙』永井柳太郎編、自由活版所、1921年3月25日

代議制度論『社会思潮十講 建設者同盟講演集』平野力三編、同人社書店、1922年6月10日[国会図書館所蔵初版本では刊行月日を7月10日に訂正]

『政治学 上巻 国家論』内外出版、1924年7月10日【緒論(1 政治学の意義、2 政治学の近隣諸科学、3 社会科学の環境規定、4 政治学の発達)、本論 1 国家本質論(1 国家の意義、2 国家の起源及び進化、3 国家の目的、4 国家の組織、5 国家の消滅)、2 国家構成論(政体論)(1 政体の意義及び分類、2 複合国家と単一国家、3 独裁政治と共和政治、4 専制政治、5 立憲政治)】

* 『政治学 下巻』[謄写版]甲文堂、1925年12月23日

政治政策原論『社会経済体系』第5巻、日本評論社、1927年3月25日

『政治思想史 上巻』岩波書店、1927年4月20日【緒論(1 政治思想史の意義、2 歴史の環境規定、3 政治思想史の構成)、1 ギリシアにおける政治学の成立(1 ギリシア政治思想の体系並にその政治、2 ギリシア哲学者の政治思想、3 ギリシア史学者の政治思想)、2 ローマの政治思想(1 ローマ政治思想の体系並にその政治、2 ギリシア思想の体系、3 ユダヤ思想の体系)、3 中世紀の政治思想(1 中世紀の政治及び政治思想の体系、2 中世紀哲学者の政治思想、3 中世紀法学者の政治思想、4 アラビア学者の政治思想)、4 近世紀前期の政治思想(1 近世紀前期の政治と政治思想の体系、2 文運復興及び宗教改革期の政治思想、3 君権民権衝突時代の政治思想、4 保護主義と自由主義の論争に現はれた政治思想)、附録(1 カントの政治思想、2 ヘーゲルの国家論)】

政治学に於ける経済政策の概念(経済政策、社会政策及び政治政策の関係)『政治学研究 小野塚教授在職廿五年記念』第1巻、吉野作造編、岩波書店、1927年12月25日

政治学概論『大思想エンサイクロペディア 17 政治思想』春秋社、1928年3月20日

『政治学に於ける方法二元論』ロゴス書院、1928年9月20日【1 社会科学に於ける方法二元論、2 政治学の基礎概念、3 国家統制論、4 法の規範性と事実性、5 国家統制の事実性、6 主権に於ける多元論と一元論、7 普通選挙理論に対する疑義、8 国際統制と国家統制の本質的類同】〈論文集〉

『政治学要論』〈ロゴス叢書 第1編〉ロゴス書院、1928年9月25日【1 政治学構成論、2 政治発生論、3 政治統制論、4 政治職能論、5 政治政策論】

『イエスの宗教とマルキシズム』〈基督教思想叢書[第1輯]第5巻〉玉川学園出版部、1929年11月15日【1 緒言、2 科学と宗教、3 史的唯物論、4 社会悪、5 蓄積、搾取、6 不法、合法、7 マルクス宗教批判、8 イエスの宗教、9 パウロの宗教、10 イエスの実践、11 新約の創世記、12 結語、付録 政治に於ける基督教会の役割】

* 『政治政策学』〈早稲田政治経済講義録〉早稲田大学出版部、1929年

『政治政策学』〈社会科学叢書 第29編〉日本評論社、1930年1月25日【1 総論(1 実践の科学、2 政治の概念、3 政策の概念、4 政治政策の指導原理)、2 各論(1 統一政策、2 治安政策、3 経済政策、4 文化政策、5 外交政策)】

『現代独裁政治論』上・下<文明協会ライブラリ>、文明協会、1930年9月30日、10月30日【1 独裁政治の概念、2 独裁政治の理論、3 現代ブルジョアジーの独裁、4 現代独裁政治の特性】

『政治学説史』〈現代政治学全集 第4巻〉日本評論社、1931年10月25日【1 緒論、2 政治学方法論史、

3 政治発生論史、4 政治統制論史】

『ファシズム運動論』＜独裁政治論叢書 第3巻＞大畑書店、1932年4月7日【1 世界的現象としてのファシズム、2「革命的ファシオ」、3「戦闘的ファシオ」、4『政党ファシスタ』、5 ファシズムの本質】〔『独裁政治論』（三笠書房、1935年）、『今中次鷹政治学論集 第3巻』収録〕

『現代独裁政治学概論』＜独裁政治論叢書 第1巻＞大畑書店、1932年4月30日【1 独裁政治の概念、2 独裁政治と民主政治、3 独裁政治と帝国主義、4 独裁政治と民族、5 独裁政治と階級】〔3を除き『今中次鷹政治学論集 第2巻』収録〕

『現代独裁政治史総説－東・中・南欧ファシズム史－』＜独裁政治論叢書 第2巻＞大畑書店、1932年5月10日【1 総論(1 現代の独裁政治国家、2 ファシズム独裁発生の原因、3 その社会的な原因、4 民族運動の様相、5 その政治的諸原因、6 特殊様相と一般の様相)、2 各論(1 立憲君主政治の独裁政治、2 立憲共和政治の独裁政治、3 立憲的独裁政治、4 わが国のファシズム運動)、3 結論(1 ブルジョアジー独裁政治の素因、2 ブルジョアジー独裁政治の勢力、3 ブルジョアジー独裁政治の様相)】〔『独裁政治論』（三笠書房、1935年）、『今中次鷹政治学論集 第2巻』収録〕

『民族的社会主義論』＜独裁政治論叢書 第4巻＞大畑書店、1932年7月15日【1 民族的社会主義の概念、2 民族的社会主義の発生、3 ナチス運動の構成及び綱領、4 民族的社会主義の批判】〔『独裁政治論』（三笠書房、1935年）、『今中次鷹政治学論集 第3巻』収録〕

『国民政治辞典』〔監修〕＜小辞典全集第2巻＞非凡閣、1934年1月23日

教壇の吉野先生『故吉野博士を語る』中央公論社、1934年4月18日

『独裁政治論』三笠書房、1935年3月15日〔＜現代獨裁政治叢書＞全4巻を収録・改題】【1 独裁政治の基礎理論(1 独裁政治の概念、2 独裁政治と民主政治、3 独裁政治と帝国主義、4 独裁政治と民族、5 独裁政治と階級)、2 現代独裁政治の一般の様相(1 総論(1 現代の独裁政治国家、2 ファシズム独裁発生の原因、3 その社会的な原因、4 民族運動の様相、5 その政治的諸原因、6 特殊様相と一般の様相)、2 各論(1 立憲君主政治の独裁政治、2 立憲共和政治の独裁政治、3 立憲的独裁政治、4 わが国のファシズム運動)、3 結論(1 ブルジョアジー独裁政治の素因、2 ブルジョアジー独裁政治の勢力、3 ブルジョアジー独裁政治の様相))、3 ファシズム運動論(1 世界的現象としてのファシズム、2「革命的ファシオ」、3「戦闘的ファシオ」、4『政党ファシスタ』、5 ファシズムの本質)、4 ナチス運動論(1 民族的社会主義の概念、2 民族的社会主義の発生、3 ナチス運動の構成及び綱領、4 民族的社会主義の批判)】

『ファシズム論』＜唯物論全書8＞三笠書房 1935年8月10日【1 ファシズム＝イデオロギー論、2 政治形態としてのファシズム、3 ファシズム政権の発展過程】〔具島兼三郎との共著、第1編、第3編を今中、第2編を具島が執筆、復刻：＜日本社会主義文化運動資料 25＞(久山社、1990年)〕

『危機の文化と宗教』南郊社、1935年10月8日【緒言 現代の体験、1 文化の危機、2 危機の神学、3 民族的基督教、4 宗教的社会主義(1 宗教的社会主義の発展、2 ゲオルグ＝ヴェンシエの信仰の告白、3 ゲオルグ＝ヴェンシエの現実的基督教)、5 危機の教会(1 政治と教会、2 国家と教会)、結言 信仰の告白(1 教会は生活の全部である、2 先験の宗教より体験の宗教へ、3 死と復活、4 処女降誕、5 葡萄園の労働者、神の家、基督者の国際主義、新プロテスタンチズムへの道)】

我が国家と我が宗教『我等ノ同志社 同志社創立六十周年記念誌』＜同志社校友同窓会報第百号特輯＞同志社事業部、1935年10月27日

国家の本質『政治及政治史研究 吉野作造先生追悼記念』蟬山政道編、岩波書店、1935年11月10日

国家をいかに見るべきか『経済科学 四十四権威集 附・世界の学者を語る』神戸商大新聞部編、甲文堂書店、1936年1月1日

『政党発生論』＜政治学叢書1＞岩波書店、1936年5月25日【1 緒論、2 政党発生に関する学説、3 日本における政党の発生、4 日本における政党の変形】

プロテスタンチズムの進歩的再建『昭和十年組合教会講演集』日本組合基督教会本部、1936年8月30日

政治学『現代哲学辞典』三木清編、日本評論社、1936年9月20日[第2版：1947年4月10日]

*日本政治過程の特性『満鉄夏季大学講演集』1936年9月

『日本政治史大綱』南郊社、1936年10月10日【緒論、1 種族国家(1 日本国家の始原、2 族父的氏族制度、3 国県制度)、2 帝政国家(1 大化改新、2 中央集権制の完成、3 中央集権制の分解、4 荘園国家の発達)、3 封建国家(1 封建制度の発生、2 鎌倉幕府の組織、3 封建制度の発達、4 封建社会の組織、5 封建制度の崩壊)、4 民族国家(1 明治維新、2 専制君主政治、3 立憲法治国家)、付録 府県会開設より国会開設に至るまでの国会論】[訂再版：1940年]

国民社会主義／国民主義／シュミット カール『経済学辞典 追補』岩波書店、1936年10月20日

日本帝国主義の始期『国家学論集 国家学会五十周年記念』国家学会編、有斐閣、1937年7月19日

ヘーゲル国家論におけるファッショ的要素『十周年記念 法学論文集』九州帝国大学法文学部編、岩波書店、1937年9月20日

戦争と政治『戦争の理論』<『日本評論』12-13 別冊付録>日本評論社、1937年12月1日

『政治統制論』日本評論社、1938年3月25日【緒言、1 政治学方法論(1 社会科学の領域及び方法、2 政治的なるものの概念)、2 政治統制構成論(1 問題の所在、2 実力説、3 法一元論、4 組織体説、5 現代政治理論の危機、6 政治統制の構成)、3 政治統制発生論(1 政治統制の歴史性、2 政治統制の原始的起源、3 政治統制の歴史的形態)、4 政治統制目的論(1 政治統制における目的の意義、2 政治統制目的の歴史性)】

国家人格論『国家及法律の理論 佐々木博士還暦記念』田村徳治編、有斐閣、1938年10月25日

『独伊独裁政の機構』日本評論社、1939年5月30日【1 独裁政治の概念、2 ファッショ=イタリアの独裁政、3 ナチス=ドイツの独裁政】

ナチス党(NSDAP)綱領[ハンス・ファブリチウス著・翻訳]『新独逸国家大系 第一巻 政治篇 1』日本評論社、1939年7月8日

政治『文化』<哲学教養講座 第6巻>三笠書房、1939年8月15日

民族概念と民族問題『法及政治の諸問題 佐藤教授退職記念』広浜嘉雄ほか編、有斐閣、1939年11月15日

日本政治史『綜合二千六百年史』<『日本評論』15-1 別冊付録>日本評論社、1940年1月1日

政治学『新版現代哲学辞典』日本評論社、1941年3月20日

『政治学』<朝日新講座 1>朝日新聞社、1941年3月20日【1 原始社会と政治社会(1 政治の起源、2 政治社会)、2 国家の政治形態(1 その変革過程、2 その発展段階)、3 議会と政治運動(1 議会とその種類、2 政党と政治運動)、4 国家観と政治政策(1 国家観と政治目的、2 政治政策)】<発禁>[新版：『政治学』<朝日新講座>朝日新聞社、1947年7月、再版：1949年3月]

『東亜の政治的新段階』日本青年外交協会出版部、1941年11月20日【序、第一回訪問 上海愚園路の和平工作(1 日支合作論序説、2 日支合作案骨子、3 汪精衛の日支和平論、4 永久闘争か恒久平和か、5 汪精衛氏と重慶政府)、第二回訪問 和平基礎案の成立(1 汪政権具体化の前途、2 新政権と対重慶方策、3 事変の認識、4 和平建国の道、5 非政権和平運動、6 汪精衛氏の宣言と阿部大使の特派、7 汪政権成立とその後に来るもの、8 汪政権の成立と事変処理の新段階)、第三回訪問(1 支那に於ける最近の情勢、2 アジアとアジア人のために、3 新政権樹立直後の政治情勢、4 日華共同文化の問題、5 南京座談会)、第四回訪問 日支基本条約の成立(1 日支国交の新段階、2 重慶に対する経済的攻勢論)、民族独立運動与其方策、A New Phase of the China Affair、付録 1 支那事変前史(1 対支認識の確立、2 我が大陸政策の基調、

3 陶希聖教授との談話並に西安事変、4 中国共産党と国民党合作の意義、5 対支外交の是正、6 最近の支那問題、7 三中全会以後の支那、8 蘇支の連携と日本、9 昭和十三年の政治的展望、10 長期戦への歩み、11 対支中央機関の新設、12 国内改革より東亜再建へ、13 平沼内閣に与ふ、14 稍々明かになりつつある事変の帰趨、15 英国の退却とその限界、付録2 日華合作の諸問題(1 東亜永遠の平和の基礎としての協同体、2 三民主義の発展としての東亜協同体、3 三民主義の批判、4 法幣の現状、和平敢闘の三年(伝式説著『福岡日日新聞』1941年元旦以後))

『民主主義』毎日新聞社、1946年1月10日【1 民主主義といふ言葉の意義、2 自由と平等への憧れ、3 個人主義と社会主義の誕生、4 庶民階級の解放へ、5 階級とはなにか、6 私有財産制の改革、7 民主主義はどうして生れたか、8 代議制度といふこと、9 代議制度の特徴、10 普通選挙と婦人参政権、11 政党政治に対する批判、12 組合運動の政治化、13 民主主義と主権の関係、14 ソ連の民主主義とナチスの民主主義、15 日本の民主主義はなぜ崩れたか、16 政治を誤つた軍閥と官僚、17 立憲的民主主義は将来どうなる、18 官僚主義を打破するには、19 政治から分離せよ—教育と宗教】

『我が民主政治の在り方』<東洋経済講座叢書 第1輯>東洋経済新報社、1946年5月28日【1 立憲民主主義と専制民主主義、2 法治国家と経済国家(Wirtschaftsstaat)、3 国防国家(Wehrstaat)と終戦国家、4 経済国家と組閣国家、5 民主主義憲法の諸問題、6 新民主主義の問題】

『ソ連邦基本法の歴史的研究』河出書房、1946年10月5日【1 序説、2 政治行政機構におけるロシヤの沿革、3 ソヴェート政治機能の成立、4 ソヴェート連邦の成立と一九二五年ロシヤ共和国憲法、5 第一次五ヶ年計画と戦時態勢の躍進、6 第二次五ヶ年計画とスターリン憲法、7 第三次五ヶ年計画と第二次大戦の勃発、8 第二次世界戦争を勝ち抜いたソ連邦、9 国家(ソヴェート)と党(共産党)との関係】

救国者の類型論—スターリンとヒトラーの相違—[「救国者の条件」]『救国者は誰か 再建日本各界人物記』<『自由国民』19・5>時局月報社、1946年12月10日

中国新憲法制度の動向『新中国の動向』日華学芸懇話会編、研究社、1947年1月25日

『日本政治史新稿』第1・2分冊、清水書店、1947年5月20日、1948年1月10日【第1分冊：緒論、1 種族国家、2 帝政国家、3 荘園国家、第2分冊：4 封建国家、5 民族国家】

議会政治『民主主義の實踐及研究』<民主主義大講座 3>日本正学館、1947年6月25日

『西洋政治思想史』第1巻、朝日新聞社、1948年7月25日【緒論(1 政治思想史の意義、2 歴史の環境規定、3 政治思想史の構成)、1 ギリシアにおける政治学の成立(1 ギリシア政治思想の体系並にその政治、2 哲学者の政治思想、3 ギリシア史学者の政治思想)、2 ローマの政治思想(1 ローマ政治思想の体系並にその政治、2 ローマにおけるギリシア思想の体系、3 ヘブル思想の体系)、3 中世紀の政治思想(1 中世紀の政治及び政治思想の体系、2 中世哲学者の政治思想、3 中世法学者の政治思想、4 アラビア学者の政治思想)】[第2版改訂：大明堂、1974年4月19日]

基督教と政治『基督教教養講座』基督教文化協会編、春光社、1948年8月1日

政治—理論と体制—『資本主義社会の構造』<社会体制講座 上>二十世紀研究所編、思索社、1948年11月10日

政治—理論と体制—『社会主義社会の構造』<社会体制講座 下>二十世紀研究所編、思索社、1948年11月10日

『民主主義と政治』<社会科学新書 5>実業教科書、1948年12月15日【1 人間と社会生活、2 人間はなにをなさねばならないか、3 人間はなにをなしてきたか、4 民主政治はいかに運営されているか、5 統制の強化と自由の要求】

『民主社会における公民の権利義務』<公民叢書 17>印刷局、1948年12月20日【民主社会における公民の権利義務(1 問題の意味、2 国家法と団体法、3 公民と民主社会、4 民約説の誤謬、5 国家の歴史性、6 権力の民主化とその限界、7 法と道徳、8 民主主義に対する批評、9 多数の支配としての民主主義、

10 経済権と政治権)、基本的人権の三段階(1 はしがき、2 十八世紀の人権宣言、3 ワイマールの人権宣言、4 ソヴェート人権宣言、5 スターリン憲法の人権宣言)】

民主主義と国家原理『民主主義の法律原理』<法学選書>尾高朝雄編、有斐閣、1949年2月20日[SE版：有斐閣、1985年]

政治／政体／政党『社会科事典 第五巻』平凡社、1949年3月28日

『現代独裁政治学』岩崎書店、1949年6月10日[『現代独裁政治学概論』の新版]【1 独裁政治の概念、2 独裁政治と民主政治、3 独裁政治と帝国主義、4 独裁政治と民族、5 独裁政治と階級】

『政治学通論—教養としての—』<新制大学一般教養科目叢書>大明堂書店、1949年6月12日【序章 社会の科学としての政治学、1 人民と民族、2 社会と社会階級、3 政治権力と法と国家、4 政体と国体の問題、5 政治運動と政党及び党、6 近代民族国家の建設、7 政治的原理としての自由主義、8 政治的原理としての進歩主義と保守主義、9 民族主義と帝国主義、10 社会主義とその政治機構、結章 政治とは何であるか】[訂正版：大明堂書店、1951年1月22日]

『基督教と共産主義』窓書院、1949年6月15日【1 政治主義か福音主義か、2 ラガアツとクッテル、3 マルキシズムの宗教理論、4 マルキシズムの唯物論、5 現代における四のファラシー、6 社会主義の政治学、7 福音と文化、8 基督教と政治、9 宗教と社会主義、10 基督教と共産主義、11 共産主義に対する基督信者の立場、12 基督教と社会主義】

独裁政治『社会科事典 第七巻』平凡社、1949年6月30日

独裁／ファシズム『社会科学辞典』河出書房、1949年11月30日

『社会民主主義の基礎知識』<新しい知識講座6>世界評論社、1949年12月25日【1 社会民主主義とはなにか、2 社会民主主義政党の発達、3 社会民主主義の理論、4 第二世界戦争後の社会民主主義】

民主主義と自由『平和と人権—あじあをめぐる平和の在り方—』科学者平和問題懇談会編、東京大学協同組合出版部、1950年11月1日[異版：『平和と人権』東京大学出版部、1951年8月]

ケルゼンの“ボルシェヴィズムの政治学的批判”『マルクスに代る学説・二十集』自由国民社、1950年11月10日

『独裁』岩崎書店、1951年3月31日[『現代独裁政治学概論』(大畑書店、1932年)の改題・新版]

現代日本の政治的課題『現代日本』<現代社会思想講座 別巻3>春秋社、1951年4月15日

『政治学序説』有斐閣、1951年4月25日【1 政治学の方法(1 政治学の歴史、2 現代の政治学、3 科学と研究の対象領域、4 集群としての社会、5 個人的領域における価値、6 価値意識と社会的存在、7 社会的に決定された価値、8 政治学における価値意識内容、9 自然法則と社会法則の一元性、10 政治的党派理論と科学的真理、11 理論の実践性について)、2 政治現象の概念(1 政治ということば、2 国家現象説と団体现象説、3 国家的創造行為説、4 実力説と権力支配説、5 政治学の入り口、6 民族と社会階級、7 政治概念と政治学、8 民族概念と民族問題、9 社会階級とは何か)、3 政治現象の発生(1 黄金時代の非政治性、2 原始存在説の批判、3 氏族制度発展の理論、4 血族婚姻禁忌と私有財産論、5 母系制下の社会秩序、6 族父制と分業、7 民族社会の成立、8 財産制度と政治権力、9 階級国家論の発展、10 階級説の批判、11 国家征服説、12 征服説の批判、13 族父的君主政治の確立、14 社会階級の発生、15 民族の成立)】

第29問 社会民主主義／第30問 宗教的社会改造運動『共産主義への50の疑問』理論社編集部編、理論社、1951年10月5日

『日本の環境 われわれの生活と政治』春秋社、1951年10月31日【1 アジアにおける日本の環境、2 アメリカに対する日本の立場、3 二つのイデオロギーの超克】

『西洋政治思想史 第2巻』朝日新聞社、1951年11月20日【4 近世紀前期の政治思想(1 近世紀前期の政

治と政治思想の体系、2 文運復興および宗教改革期の政治思想、3 民族統一国家論、4 自由民権論】

【無題】『米の統制撤廃に関する世論第 1 編』参議院農林委員会、1951 年 11 月

官僚主義と秘密政治【「破防法への直言と感想」】『破壊活動防止法—逐条解説と総批判』〈別冊法律時報〉
日本評論社、1952 年 8 月 15 日

社会主義と宗教『宗教と社会問題』〈新宗教論大系 第 4 巻〉柳田謙十郎編、五月書房、1952 年 12 月 5
日

ファシズム『世界歴史事典』第 16 巻、平凡社、1953 年 6 月 30 日

『政治学概論』大明堂、1954 年 4 月 11 日【1 社会科学と政治学、2 原始社会と政治社会、3 民族共同体と
社会階級、4 政治権力と国家、5 政体と国体、6 政治運動。政党と党、7 民族主義と帝国主義。社会主義、
8 戦争と平和】

階級／国家技術／国家征服説／社会学的国家論『政治学事典』平凡社、1954 年 5 月 18 日

ファシズムと独占資本の支配すなわち帝国主義について『ファシズムと軍事国家』〈政治学研究叢書 2〉鈴
木安蔵・浅田光輝編、勁草書房、1954 年 5 月 25 日

水爆と世界政治『原爆と広島』〈大学人会研究論集第 1 集〉平和と学問を守る大学人の会編、広島県教職
員組合事業部、1954 年 12 月 10 日

教育と政治『教育哲学の課題』長田新編、東洋館出版社、1954 年 12 月 15 日

*『西洋政治思想史』〈NHK 教養大学〉日本放送協会編、宝文館、1954 年

序文『政治原理 上』共編〈政治学講座 第 1 巻〉理論社、1955 年 3 月 1 日

政治学方法論の発達【第 1 章序論】『政治原理 上』共編〈政治学講座 第 1 巻〉理論社、1955 年 3 月 1 日

『政治原理 下』共編〈政治学講座 第 2 巻〉理論社、1955 年 4 月 15 日

序文『政治思想 上』共編〈政治学講座 第 3 巻〉理論社、1955 年 5 月 15 日

政治思想とその発展【序説】『政治思想 上』共編〈政治学講座 第 3 巻〉理論社、1955 年 5 月 15 日

啓蒙主義【第 2 章革命反革命時代の政治思想】『政治思想 上』共編〈政治学講座 第 3 巻〉理論社、1955
年 5 月 15 日

浪漫主義【第 2 章革命反革命時代の政治思想】『政治思想 上』共編〈政治学講座 第 3 巻〉理論社、1955
年 5 月 15 日

フィジオクラシー【第 3 章ブルジョア政治思想の確立】『政治思想 下』共編〈政治学講座 第 4 巻〉理論社、
1955 年 6 月 10 日

『政治史 上』[共編]〈政治学講座 第 5 巻〉理論社、1955 年 7 月 10 日

『西哲夢物語』解題『明治文化全集 第一巻 憲政篇』〈改版〉日本評論新社、1955 年 7 月 30 日

『須多因氏講義筆記』解題『明治文化全集 第一巻 憲政篇』〈改版〉日本評論新社、1955 年 7 月 30 日

『政治史 下』[共編]〈政治学講座 第 6 巻〉理論社、1955 年 8 月 15 日

政治学について『社会科学を学ぶものへ—第二学生への手紙—』同文館編・刊、1955 年 10 月 31 日

キリスト教社会倫理・政治『キリスト教の思想』〈現代キリスト教講座 第 4 巻〉気賀重躬・熊野義孝・
松村克己編、修道社、1956 年 5 月 30 日

ファシズム『世界歴史事典【学生版】』第 7 巻、平凡社、1956 年 10 月 5 日

『政治権力の歴史的構造 続政治学序説』合同出版社、1957年9月1日【1 イデオロギーとしての政治、2 政治の原始的起源に関するエンゲルスの理論、3 生産力は何故発展するか、4 政治権力の歴史的構造を規定するもの、5 政治権力の原始的起源、6 古代権力とアジア的デスポチズム、7 古代政治権力の崩壊(封建制の成立)、8 封建制政治権力の構造】

封建制政治権力の基礎構造『法と政治の研究 九州大学法学部創立三十周年記念論文集』有斐閣、1957年12月10日

政治権力変革の理論『政治権力の諸問題 小岩井浄教授還暦記念論文集』[編著]合同出版社、1958年3月20日

教育と政治『教育原理』<教育学テキスト講座第2巻>御茶の水書房、1958年4月15日

*福岡地方における民主主義の発展と九州大学『福岡地方における民主主義思想の生成と発展についての調査及び研究資料』第3集、1959年9月[『今中次歴 生涯と回想』収録]

『政治学原理要綱』大明堂、1960年2月16日【1 政治学構成論(1 社会科学の方法、2 政治現象と政治学)、2 政治発生論(1 原始社会と政治社会、2 民族共同体と社会階級)、3 政治権力論(1 政治権力と国家、2 政治権力と政体、3 政体の変革)、4 政治運動論(1 政治運動の形成、2 近代政党論、独裁党論)、5 政治政策論(1 政治政策の原理、2 政治政策各論)】

*『政党』<政治と選挙シリーズ2>福岡県選挙管理委員会、1963年

『今中次歴先生研究生生活回顧』<佐賀大学法経論集 別冊>、[1963年]

再考を要する民族と階級概念『法学論文集 宇賀田順三博士還暦記念』宇賀田順三博士還暦記念法学論文集出版委員会編・刊、1966年3月30日

超国家の権力『勇氣あることば』毎日新聞社、1967年11月15日[初出は1965年10月~1967年8月の『毎日新聞』日曜特集“ほん”欄「勇氣ある言葉」に掲載されているはずであるが確認できない]

『政治社会発展の理論』<講談社現代新書>講談社、1967年12月16日【プロローグ、1 原始社会の成立、2 生産力と生産関係、3 政治社会の成立、4 国家のいろいろのかたち、5 近代民族国家と民主主義、6 現代の国際政治と日本】

横田憲治宛書簡3通[1925年3月20日、3月20日、10月14日]『伊那自由大学関係書簡(横田家所蔵)』自由大学研究会、1973年9月1日

『新政治原理総論』大明堂、1974年6月13日【1 政治学構成論、2 政治発生論、3 政治権力論、4 政治運動論、5 政治政策論】

『今中次歴政治学論集 第2巻』御茶の水書房、1978年12月15日【現代独裁政治学概論、現代独裁政治史総説】

『今中次歴政治学論集 第3巻』御茶の水書房、1981年6月25日【ファシズム運動論、民族的社会主義論】

『今中次歴 生涯と回想』今中次歴先生追悼記念事業会編、法律文化社、1982年4月15日【私の政治学の歩み、時々事々(1 私の青年時代、2 花陵会の今は昔、3 学究への道程、4 私の処女作『民本主義』一大正八年『偶感日録』より一、5 恩師のこと一「海老名弾正への手紙」一、6 恩師のこと一「吉野先生の絶筆」一、7 政治学の古典に没頭一いわゆる“遍歴”は私にはない一、8 福岡地方における民主主義の発展と九州大学、9 佐賀大学十四回開学記念式式辞、10 科学を生活の中へ)】

2. 論文等(新聞・雑誌掲載)<746 篇>

1915(大正 4)年

赤い花『龍南会雑誌』158、6月20日<真菰生>

1916(大正 5)年

新人出現の希望[「新人新語」]『新人』17-12、12月1日

1918(大正 7)年

露西亞の革命と欧州大乱[翻訳]『新人』19-2、2月1日<真菰生>

青年会大会／戦局の将来／国民と国民との外交[「時評」]『新人』19-6、6月1日<真菰生>

政治の運用と世界観『新人』19-6、6月1日<真菰生>

日支協約の価値を疑ふ／同仁会の対支新計画[「時評」]『新人』19-7、7月1日<真菰生>

米暴動の経済観／西伯利出兵の経過／米暴動の政治観[「時評」]『新人』19-9、9月1日<真菰生>

欧露出兵如何／実力を発揮し来れる輿論[「時評」]『新人』19-10、10月1日<真菰生>

講和問題に対する態度／現内閣の経済政策／現内閣の外交政策[「時評」]『新人』19-11、11月1日<真菰生>

教育主査会の人心統一案／世界の平和と戦勝国の責任[「時評」]『新人』19-12、12月1日<真菰生>

国際連盟と希臘思想及び猶太思想『新人』19-12、12月1日

1919(大正 8)年

嗚呼信仰薄きものよ／露国に於ける吾外交の地位[「時評」]『新人』20-1、1月1日<真菰生>

田中教授の普通選挙尚早論／須磨子の合葬問題／愈々全米国の禁酒／独逸の新組織／東清鉄道問題／英国総選挙の結果[「時評」]『新人』20-2、2月1日<真菰生>

組合主義を發揮すべし『[本郷教会]月報』1、2月20日

古希伯来の政治精神『新人』20-3、3月1日

澎湃たる民衆の潮流[「時評」]『新人』20-3、3月1日<真菰生>

国際労働局の組織[「時評 財政及経済」]『新人』20-4、4月1日<今中生>

徴兵廃止問題[「時評 法律及政治」]『新人』20-4、4月1日<今中生>

連盟案の前途／国際労働法案可決[「時評 法律及政治」]『新人』20-5、5月1日<今中生>

希臘思想に於けるデモクラシーの内容と傾向『新人』20-6、6月1日

媾和調印祝賀に就て／識者の国際連盟観／アメリカ嫌いに就て[「時評」]『新人』20-8、8月1日<今中生>

デモクラシーの真相－(山川均氏の「社会主義の立場から」を読んで)－『新人』20-9、9月1日[太田雅夫

編『資料大正デモクラシー論争史 下巻』(新泉社、1971年)収録]

[「新人の一隅より」]『新人』20-9、9月1日<<今中生>>

重大なる対露外交／対露外交の善後策／職工組合公認と官設調停機関の必要[「時評」]『新人』20-9、9月1日<<今中生>>

下鴨より[「新人の一隅より」]『新人』20-10、10月1日<<今中生>>

排斥すべき米国上院の態度／欧露の真実相／物価政策の消極論と積極論[「時評」]『新人』20-10、10月1日<<今中生>>

[「新人の一隅より」]『新人』20-11、11月1日<<今中生>>

山東問題の解決を祝す／英国に於ける労働党の勢力／融和し難き独露関係[「時評」]『新人』20-11、11月1日<<今中生>>

産業組織の改造と政治的デモクラシーの能力『新人』20-12、12月1日[太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 下巻』(新泉社、1971年)収録]

[「新人の一隅より」]『新人』20-12、12月1日<<今中生>>

1920(大正9)年

[「新人の一隅より」]『新人』21-1、1月1日<<今中生>>

国際連盟か労働者か／普通選挙と既成政党／予期の経過をたどりつゝある露国／仏国労働者と政治問題[「時評」]『新人』21-1、1月1日<<今中生>>

同志社大学の教育方針を問ふ[「想苑」]『同志社時報』171、1月1日

[「新人の一隅より」]『新人』21-2、2月1日<<今中生>>

露国政局の過激化／ウイルソンの対思想政策[「時評」]『新人』21-2、2月1日<<今中生>>

[「新人の一隅より」]『新人』21-3、3月1日<<今中生>>

愚問呂運亨問題／同一轍の対支政策対露政策／西伯利撤兵問題の困難とする説批評／ランシング卿の辞職とウイルソン[「時評」]『新人』21-3、3月1日<<今中生>>

ギリシア思想の体系とその政治思想の内容『同志社論叢』1、3月1日

[「新人の一隅より」]『新人』21-4、4月1日<<今中生>>

議会解散是認論[「時評」]『新人』21-4、4月1日<<今中生>>

[「新人の一隅より」]『新人』21-5、5月1日<<今中生>>

[「新人の一隅より」]『新人』21-6、6月1日<<今中生>>

協調主義の外交を挑す／総選挙後の政局／シベリア紛擾の責任[「時評」]『新人』21-6、6月1日<<今中生>>

ローマに於けるギリシア思想の体系とその政治思想『同志社論叢』2、6月1日

[「新人の一隅より」]『新人』21-7、7月1日<<今中生>>

独逸政局の将来／日英同盟存廃問題[「時評」]『新人』21-7、7月1日<<今中生>>

困った代議士気質／北樺太出兵／ニコライエフスク事件顛末の公表に就いて／尾崎氏の正論／政友会の態度[「時評」]『新人』21-8、8月1日<<今中生>>

〔「新人の一隅より」〕『新人』21-9、9月1日〈今中生〉
代議制度の改造に就て『新人』21-9、10、9月1日、10月1日
〔「新人の一隅より」〕『新人』21-10、10月1日〈今中生〉
原田博士を送る〔「時評」〕『新人』21-10、10月1日〈真菰生〉
日米問題に対する態度〔「時評」〕『新人』21-10、10月1日〈今中生〉
友愛会と政治運動／組合協会総会と人物難の声／神社と軍国主義〔「時評」〕『新人』21-11、11月1日〈今中生〉
共和党の勝利を呪ふ／高等女学校高等科の設置／ウランゲル軍の敗北〔「時評」〕『新人』21-12、12月1日
〈今中生〉
古代ヘブル民族の政治思想『同志社論叢』3、12月1日

1921(大正10)年

対露政策の政治学的批判『新人』22-1、1月1日
教会と社会問題／チタ統一政権承認問題〔「時評」〕『新人』22-1、1月1日〈今中生〉
アキノのトマスの法律論『同志社論叢』4、2月25日
軍備制限問題／学校昇格問題〔「時評」〕『新人』22-3、3月1日〈今中生〉
ダンテの政治思想『新人』22-5、5月1日
山本亀市君の死を悼む『同志社時報』186、5月1日
ルソーの政治思想『同志社論叢』5、5月20日
変化多き半生〔「山本亀市君、白井潔君追悼」〕『新人』22-7、7月1日
東宮御渡欧の効果〔「時評」〕『新人』22-9、9月1日〈今中生〉
国家観と国際思想の消長『外交時報』406、10月1日
国際思想の発達『新人』22-10、10月1日
民衆主義国家観の批判『我等』3-10、10月1日
カルビンの政治思想『同志社論叢』6、11月15日
国際思想と国家『外交時報』411、12月15日

1922(大正11)年

ルソーとコールの議会否認論『我等』4-1、1月1日
ワシントン会議に現はれたアメリカニズム『新人』23-1、1月1日
*社会運動の政治的考察『大阪時事新報』2月8～16日〔神戸大学「新聞記事文庫」〕
カントの契約的国際社会論『外交時報』419、4月15日
軍事行政組織の政治学的考察－特に吾国の現行制に就いて－『新人』23-5、5月1日

軍事行政組織の政治的考察 特に吾国の現行制度に就いて『我等』4-5、5月1日

カントの政治思想『同志社論叢』8、6月15日[『政治思想史 上巻』収録]

伯林より『同志社時報』201、10月1日

1923(大正 12)年

大嵐の後『新人』24-2、2月1日<<真菰生>>

大嵐の後『新人』24-3、3月1日<<真菰生>>

大嵐の後『新人』24-6、6月1日<<真菰生>>

大嵐の後 賠償問題付ルール占領問題『新人』24-7、8、7月1日、8月1日<<真菰生>>

1924(大正 13)年

卑下より自覚へ[「社説」]『同志社時報』215、1月1日

国家学上当面の問題『新人』25-2、2月1日

新トルコ共和国のアンゴラ憲法[翻訳]『同志社論叢』13、2月25日

英国労働党組閣の意義[「批評と紹介」]『新人』25-3、3月1日

法学部第五回読書会報告『同志社時報』217、3月1日

唯物史観とカントと現代の神学『新人』25-4、5月1日

我が対米外交を中心として 旧式外交の失敗暴露『新人』25-5、6月1日

宗教革命を要望す『新人』25-6、7月1日

政治学の基礎概念『同志社論叢』14、7月1日[『政治学に於ける方法二元論』収録]

近世民権思想史上に於けるキリスト教会の功罪『新人』25-7、8月1日

親中心の倫理思想とキリスト教の神観『新人』25-9、10月1日

ヘーゲルの国家理念論の考察『国家学会雑誌』38-11、11月1日[「ヘーゲルの国家論」と改題『政治思想史 上巻』収録]

フィルマアの族父権論『同志社論叢』15、11月28日

1925(大正 14)年

法の規範性と事実性—自由法説の批判として—『同志社論叢』16、3月1日[『政治学に於ける方法二元論』収録]

*時代遅れの普選法案『事業之日本』4-7、7月1日

国家統制論『同志社論叢』17、7月1日[『政治学に於ける方法二元論』収録]

社会科学に於ける方法二元論『社会科学』1-3、8月1日[『政治学に於ける方法二元論』収録]

1926(大正 15・昭和元)年

普通選挙理論に対する疑義—職能代表論—『国家学会雑誌』40-2、3、2月1日、3月1日[『政治学に於ける方法二元論』収録]

学問の研究と同志社に就いて交友諸君に訴ふ『同志社時報』239、3月1日

主権に於ける多元論と一元論『同志社論叢』19、3月1日[『政治学に於ける方法二元論』収録]

支那統一の諸勢力と赤化問題[1925年11月12日同志社大学法学会大会講演要旨「彙報」]『同志社論叢』19、3月1日

国家統制の事実性『国家学会雑誌』40-9、10、9月1日、10月1日[『政治学に於ける方法二元論』収録]

政党の墮落『同志社新聞』1、9月27日

1927(昭和 2)年

議会政治と三つの問題『経済往来』2-1、1月1日

議会解散論是非『法律春秋』2-2、2月1日

マルキシズムに対する基督教の地位『開拓者』22-6、6月1日

国民党支援論『法律春秋』2-6、6月1日

「経済国家」とファシズム[「学界余談」]『東京朝日新聞』7月26日

支那革命の二大難関『経済往来』2-8、8月1日

グムプロキツツの科学方法論『国家学会雑誌』41-8、8月1日

普選後の地方政治『法律春秋』2-10、10月1日

中島重君の「日本憲法論」を読む『同志社新聞』14、11月15日

Ludwig Waldecker : Allgemeine Staatslehre, 1927[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』41-12、12月1日

1928(昭和 3)年

国際政治団体と国家状態の類同『国際法外交雑誌』27-1、2、1月1日、2月1日[「国際統制と国家統制の本質的類同」と改題『政治学に於ける方法二元論』収録]

産業立国と地方分権『法律春秋』3-1、1月1日

産業立国と地方分権[「想苑」]『日本教育』7-2、2月1日

R.M MacIver, The modern state, 1926[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』42-3、3月1日

投票権なき有権者[「学界余談」]『東京朝日新聞』3月10、11日

現代帝国主義の発展『外交時報』562、5月1日

明治選挙学説史の一節『明治文化研究』4-5、5月1日

ラスキの議会政治改良案『法律春秋』3-5、5月1日

[「イエス研究討議に対する諸先輩の回答集」]『開拓者』23-6、6月1日

政局のたどるべき正しき道『経済往来』3-6、6月1日
府県会開設より国会開設までの国会論『明治文化研究』4-7、7月1日[『日本政治史大綱』収録]
対支政策の転換『外交時報』568、8月1日
グムプロキッツの政治発生論『国家学会雑誌』42-8、9、8月1日、9月1日
婦人参政権『明治文化研究』4-11、11月1日
営利経済学の没落『経済往来』3-12、12月1日

1929(昭和4)年

現代国際法論に現はれた主観主義と客観主義『国際法外交雑誌』28-1、1月1日
立憲国家の批判『九州大学新聞』21、2月12日
現代主権論に現はれたる国際主義『外交時報』585、4月15日
議会主義に於ける二つの新しい傾向『経済往来』4-7、7月1日
政治統制の合理的基礎『国家学会雑誌』43-8、8月1日
東支鉄道問題[「時事評論」]『九州大学新聞』29、8月5日
政党政治よ何処へー政党腐敗のはなしー『京都帝国大学新聞』111、10月15日
現代独裁政治の特性『外交時報』599、601、11月15日、12月15日[修正加筆して『現代独裁政治論』『現代独裁政治史総説』第2章・第3章に収録]
政治に於ける基督教会の役割『神学評論』16-3、12月15日[『イエスの宗教とマルキシズム』、「政治と教会」と改題『危機の文化と宗教』収録]
支那の訓政難ー(支那政局の将来)ー『九州大学新聞』36、12月20日

1930(昭和5)年

政党および政党政治の将来『福岡日日新聞』1月1、4、13、17～21、24、25、27日
政界革正論『京都帝国大学新聞』117、118、1月21日、2月5日
国家主権と国際法ー並に国際法と自然法ー『国際法外交雑誌』29-2、2月1日
選挙制度批判と憲政将来の示唆 美濃部博士著『現代憲政評論』及吉野博士著『現代憲政の運用』『帝国大学新聞』331、3月17日
ハインリッヒ・レオの国家の自然科学『国家学会雑誌』44-5、6、5月1日、6月1日
現下の無産政党合同問題批判『中央公論』45-5、5月1日
議会当面の政治問題『九州大学新聞』41、5月5日
独裁政治の概念『外交時報』613、6月15日
『社会契約の例文』について『法律春秋』5-7、7月1日
プロレタリア政権創生の問題『我観』81、8月1日

政治の経済化か経済の政治化か『経済往来』5-10、10月1日

労農党の分解[「時事評論」]『九州大学新聞』49、10月31日

テロリズムの政治的意義『京都帝国大学新聞』133、11月21日

現代欧州に於ける反動的独裁政治発生の一般的傾向『国家学会雑誌』44-12、45-3、12月1日、**1931年**3月1日[『現代独裁政治史総説』第1章第2・6節に収録]

1931(昭和6)年

明日の政治形態『経済往来』6-1、1月1日

政党政治論より見たる首相代理問題『九州大学新聞』54、2月5日

政治的危機としての経済的危機『経済往来』6-3、3月1日

我国に反動的独裁政治は可能なりや『九州大学新聞』57、4月20日

森口教授の選挙理論「選挙制度論」批判『京都帝国大学新聞』143、5月21日

反宗教運動の批判[「時事評論」]『九州大学新聞』60、6月5日

現代国家の危機としての整理緊縮[「国家メカニズムの苦悩」]『経済往来』6-7、7月1日

帝国主義の段階論『外交時報』640、8月1日

満州事変の責任『九州大学新聞』65、10月5日

新プロテスタンチズムへの道『基督教世界』2490、10月22日

ファシズムの実相と本質『法政研究』2-1、12月30日[未完結部分を補い加筆・修正して『ファシズム運動論』として刊行]

1932(昭和7)年

国内政治情勢の見事な鳥瞰図—佐々氏著『大衆政治読本』—『帝国大学新聞』427、4月11日

*政治形態としてのファシズム『思想問題』1-5、5月1日

ファシヨの認識と対策『外交時報』662、7月1日

政党の発生(序論)—学説史的観察—『国家学会雑誌』46-8、8月1日

最近のファシヨ文献『帝国大学新聞』444、9月20日

政治に於ける農村問題の由来『基督教世界』2538、9月29日

文化思想に現はれたファシズム—危機神学を中心として—『思想』125、10月1日[「危機の神学」と改題『危機の文化と宗教』収録]

農村救済の根本的対策『基督教世界』2549、12月15日

1933(昭和8)年

ファシヨに脈ふる—その本質の究明が三三年への課題—[「学界 一九三二年の回顧と一九三三年への展望 政治学」]『帝国大学新聞』460、1月1日

我国社会的特質と次の内閣『帝国大学新聞』467、2月20日
 国家理論における文化的危機—ズメント、ハウプト、シュターペル及クヴェルヴァインのファシズム哲学—『理想』38、3月1日[「民族的基督教」と改題『危機の文化と宗教』収録]
 ヒトラー内閣成立の真相『法政研究』3-2、3月30日
 ファッショ=イタリアの政治的構成(経済国家の創設)『都市問題』16-4、5、4月1日、5月1日
 現下の政局と政変『九州大学新聞』87、4月20日
 ナチスのテロ進行曲[「時事小言」]『九州日報』4月29日
 吉野先生の絶筆[「時事小言」]『九州日報』5月5日[「恩師のこと—「吉野先生の絶筆」—」と改題『今中次麿 生涯と回想』収録]
 第三帝国の目標如何[「時事小言」]『九州日報』5月10日
 ナチスに追はれた教授連『九州大学新聞』91、6月20日
 [「夏の休みに何を讀むべきか—諸先生の回答—」]『九州大学新聞』91、6月20日
 最新立憲政治学説の傾向『公民教育』3-7、7月1日
 政党政治と独裁政治『社会政策時報』154、7月1日
 政治理論に於ける文化危機学派とその分野『国家学会雑誌』47-8、8月1日[「文化の危機」と改題『危機の文化と宗教』収録]
 大牟田及び福岡の昨今[「時事小言」]『九州日報』8月3日
 京大問題の余燼[「時事小言」]『九州日報』8月5日
 ナチス独裁の発展『外交時報』692、10月1日
 危機神学運動の政治的様相『社会的基督教』2-10、10月1日
 文化と其危機に就て『朝鮮及満州』311、10月1日
 「浅野君」[「追憶の浅野助教授」談]『九州大学新聞』95、10月5日
 堀真琴氏著「現代独裁政治論」『帝国大学新聞』497、10月16日
 イブセンに於ける危機の社会学『九州大学新聞』98、11月20日
 *学問と宗教『九州帝大基督教青年会報』11月25日
 本邦ファシズムの動向と政権の帰趨『国家学会雑誌』47-12、12月1日
 百号発刊記念に際して[「歴代部長の思ひ出」]『九州大学新聞』100、12月20日
 *政治政策論『[早稲田大学]政治経済講義』第61回・14号、月日未詳

1934(昭和9)年

文化危機論に学ぶ[「非常時教育方策に寄す 教育大会決議の検討」]『帝国教育』640、1月1日
 京大訣別記念法学論文集を讀む『京都帝国大学新聞』195、1月10日
 *教会は生活の全部である『いづみ』23、1月[『危機の文化と宗教』収録]

組合国家論『中央公論』49-2、2月1日
 同志社の長田君[「故長田助教授を憶ふ」]『九州大学新聞』103、2月5日
 ファシズム独裁国家の本質『法律時報』6-3、3月1日
 第六十五議会と内閣改造『帝国大学新聞』517、3月20日
 第六十五議会 内閣改造問題『朝鮮公論』22-4、4月1日
 社会改造理論としてのファシズムとコミュニズム『理想』47、4月1日
 現代思想の動向と基督教『開拓者』29-5、5月1日[「現代の体験」と改題『危機の文化と宗教』緒言に収録]
 政局の明流暗流『九州大学新聞』108、5月10日
 *先験の宗教より体験の宗教へ『ともしび』53、5月13日説教[『危機の文化と宗教』収録]
 カール・シュミットに於けるナチスの政治思想『外交時報』708、6月1日
 政治評論における情報とイデオロギー[「時評」]『帝国大学新聞』533、6月18日
 濃厚化しゆく独裁形態[「研究室をのぞく」]『九州大学新聞』111、6月20日
 [「学生の鎖夏法 諸教授にきく訊く 一、学生の鎖夏法 二、学生時代に実行されし鎖夏法」]『九州大学新聞』
 111、6月20日
 政治的世論の焦燥『社会時情』2-7、7月1日
 カルル＝マンハイムの政治科学方法論『国家学会雑誌』48-8、9、11、12、8月1日、9月1日、11月1日、
 12月1日
 中産階級と政変『政界往来』5-8、8月1日
 国家生活に対する基督的理解『開拓者』29-9、9月1日[「国家と教会」と改題『危機の文化と宗教』収録]
 教会は社会生活のすべてである[「教会問題の総検討」]『社会的基督教』3-11、11月1日
 「自殺の社会学的研究」－井口教授の遺稿集を読む－『九州大学新聞』117、11月5日
 初めて現れた『ナチスの法律』－その全面的紹介－『帝国大学新聞』555、12月17日
 今年の我が政治学界の回顧『九州大学新聞』120、12月20日

1935(昭和10)年

危機神学左派－Georg Wünsch の唯物論の神学－『唯物論研究』27、1月1日[「ゲオルグ＝ヴンシエの
 現実的基督教」と改題『危機の文化と宗教』収録]
 唯物論の弁証法的神学『社会的基督教』4-2、2月1日[「ゲオルグ＝ヴンシエの信仰の告白」と改題『危
 機の文化と宗教』収録]
 基督者の国際主義『日本基督教新聞』2242、2月3日[『危機の文化と宗教』収録]
 政治形態の動揺－独裁政治の行衛について『行動』3-3、3月1日
 国民主義の批判『理想』53、3月1日
 尊王攘夷運動の歴史性『福岡日日新聞』4月5、6、9、11～14、16～21、23日
 国家観の趨勢『九州帝国大学新聞』127、4月20日

国法学理論の貧困 ケルゼン学説の現代的意義『帝国大学新聞』575、4月28日
日本ファツシズムの現段階[「日本ファツシズムの新展望」]『改造』17-5、5月1日
現代新神学に於ける弁証法的神学の政治的地位『開拓者』30-5、5月1日[「宗教的社会主义の発展」と改題
『危機の文化と宗教』収録]
国史教育の効果[「随筆」]『政界往来』6-5、5月1日
国家観に於ける近代主義の崩壊[「世界を風靡する新興思想の展望」]『経済往来』10-6、6月1日
政治機構の将来[「改造の種々相」]『産業と教育』2-6、6月1日
政治的自由の狭隘化と知識階級の立場『中央公論』50-6、6月1日
世界ファツシズムの現勢『連合情報』943、6月5日
法治主義[「日日随想」]『福岡日日新聞[夕刊]』6月8日
時評『帝国教育』675、6月15日【(一)学説問題に含まれてゐる学理的な意味、(二)内閣審議会は政權強
化に役立つか】
言論自由の根本問題『早稲田大学新聞』11、7月3日
[「選挙肅正と公民教育に関する各方面の意見」]『公民教育』5-8、8月1日
官僚内閣と選挙肅正『政界往来』6-8、8月1日
保守主義としての自由主義『サラリーマン』8-9、9月1日
立憲政治の将来『朝鮮地方行政』14-9、9月1日
独裁政治の将来『大大阪』11-10、10月1日
「自由主義を語る」『東洋経済新報』1678、10月26日[座談会：戸坂潤、清沢洌、加田哲二、室伏高信、
赤松克麿、蟬山政道、長谷川如是閑、石井満、杉森孝次郎、石橋湛山。『自由主義とは何か』(東洋経
済新報社、1936年5月)収録]
『ファツシズム国家学』を読む『法律時報』6-11、11月1日
新カント主義政治学の危機(序論)『法政研究』6-1、11月20日
プロテスタンチズムの進歩的再建『社会的基督教』4-12、12月1日
宗教と唯物論[「日日随想」]『福岡日日新聞[夕刊]』12月8日

1936(昭和11)年

既成政党とその将来『政界往来』7-1、1月1日
自ら独裁化する現政權[「国内政治」]『帝国大学新聞』606、1月1日
佐藤教授著『政治学』を読む[「新刊批評」]『法律時報』8-1、1月1日
一九三六年の政治外交『九州帝国大学新聞』141、1月13日
民族観念の混乱『福岡日日新聞』1月27～31日、2月1日
*教会青年の進むべき道『青年基督者』12、1月30日
新明正道編『現代知識社会学論』[「紹介」]『国家学会雑誌』50-2、2月1日

自由主義の頽廃『中央公論』51-2、2月1日
教育国策の諸問題を読む[「書評」]『帝国大学新聞』612、2月17日
改革期神学の進歩的方向—ゲオルグ＝ヴュンシユー『社会的基督教』5-3、3月1日
政党か、官僚か、軍部か[「軍部か官僚か政党か」]『日本評論』11-3、3月1日
ルドルフ＝スメンの等制主義国家論『法政研究』6-2、3月30日
対支認識の確立『外交時報』752、4月1日[『東亜の政治的新段階』収録]
政友会は何故没落したか『セルバン』62、4月1日
国家改造原理としての日本主義と社会主義[「日本主義か社会主義か」]『日本評論』11-6、6月1日
[「本紙創刊百五十号記念特輯 われらの時代—旧新聞部長—」]『九州帝国大学新聞』150、6月20日
国民の自治運動『馬哇新聞』3359、6月26日
共産主義の批判『日本評論』11-7、7月1日
現段階に於ける政党の地位と役割『連合情報』1264、7月4日
政治的自由の擁護『中央公論』51-8、8月1日
庶政一新八面観 現政府のもつ自からなる限界『福岡日日新聞』8月7日
我が大陸政策の基調『外交時報』764、10月1日[『東亜の政治的新段階』収録]
北支に遊びて『九州帝国大学新聞』155、10月7日
外交の巧拙『福岡日日新聞』10月7日
軍部・財閥及び大衆 当面の諸問題を繞つて『早稲田大学新聞』52、10月28日
吾が議会制と国民性『中央公論』51-11、11月1日
最近二十五年間の政治及び公法学界『九州帝国大学新聞』156、11月6日
法律と常識[「日日随想」]『福岡日日新聞[夕刊]』11月12日
議会政治否認[「日日随想」]『福岡日日新聞[夕刊]』11月19日
[「カレントブックス」]『帝国大学新聞』650、11月30日
支那に関する文献について『書物展望』6-12、12月1日

1937(昭和12)年

ナチス・ドイツの政治[「ナチス独逸総研究」]『日本評論』12-1、1月1日
西安事変を通じて支那の民論を觀る(並に陶希聖教授の談話)『福岡日日新聞』1月1、3、5、7、9～10日[7日
付以後の表題は「支那問題の観点—陶希聖教授に聴く」。「陶希聖教授との談話並に西安事変」と改題『東
亜の政治的新段階』収録]
日独防共協定とファツシズム今後の動向『ペン』2-1、1月1日
消費組合と政治[「政治講座」]『ホーム・ユニオン』4-1、1月1日
『大衆政治経済』の創刊[「書評」]『九州帝国大学新聞』160、1月23日

政党復活論批判『中央公論』52-2、2月1日
日本憲法と議会政治『東陽』2-2、2月1日
準戦時体制と議会政治[「戦時体制下の議会政治」]『日本評論』12-2、2月1日
*日本大陸政策的基調『文化建設』3-2、2月1日
最近の支那問題[「政治講座」]『ホームユニオン』4-2、2月1日[『東亜の政治的新段階』収録]
政変と既成政党の将来[「既成政党の運命と新政党の問題」]『日本評論』12-3、3月1日
今度の政変[「政治講座」]『ホームユニオン』4-3、3月1日
理論と組織とを喪失した学生[「学生と政治」]『京都帝国大学新聞』259、3月5日
第七十議会に餞す『新愛知』3月30、31日[(上)・(中)のみ、(下)は確認できない]
ケルロイテルの民族的法治国家論『法政研究』7-1、3月31日
中国共産党と国民党合作の意義『外交時報』776、4月1日[『東亜の政治的新段階』収録]
対支外交の是正『政界往来』8-4、4月1日[『東亜の政治的新段階』収録]
三中全会以降の支那[「政治講座」]『ホームユニオン』4-4、4月1日[『東亜の政治的新段階』収録]
七十議会を顧みて『福岡日日新聞』4月7、9日
科学者と自由『科学ペン』2-5、5月1日
現代政治と新聞[「今日の新聞を批判す」]『セルパン』76、5月1日
日本主義の政治的性格[「日本の成熟と危機」]『日本評論』12-5、5月1日
解散と総選挙[「政治講座」]『ホームユニオン』4-5、5月1日
市会と選挙[「日日随想」]『福岡日日新聞[夕刊]』5月30日
政治的審判の日『中央公論』52-6、6月1日
超然内閣と政党[「政治講座」]『ホームユニオン』4-6、6月1日
独裁主義の批判『理想』74、6月1日
先生の心境を表現するもの[「海老名弾正先生の思ひ出を語る」]『基督教世界』2777、6月3日
最近の法治国家論『公法雑誌』3-6、7、6月5日、7月5日
超然内閣としての林内閣の後退『九州帝国大学新聞』165、6月5日
学生新聞のゆきかた『九州帝国大学新聞』166、6月20日
黒田教授の近業 日本憲法学(上)を読む『京都帝国大学新聞』264、6月20日
近衛内閣に於る二つの性格と帰趨『早稲田大学新聞』77、6月23日
内閣の更迭[「政治講座」]『ホームユニオン』4-7、7月1日
国境の風雲『ホームユニオン』4-8、8月1日
問題の核心[「政治講座」]『ホームユニオン』4-9、9月1日
同志社の問題について『基督教世界』2793、9月23日

平和主義哲学の批判『自由』1-10、10月1日

蘇支の連携と日本『ホームユニオン』4-10、10月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

革新思想の変遷『理想』78、10月1日

「事変下の学生に与ふ」『三田新聞』380、10月5日

蘇連の現状と極東問題—とくにトハチエフスキー事件を中心として—『九州帝国大学新聞』171、10月12日

理論的指導性を重んじ持久戦に備へよ！内的反省と北支工作[「回顧と展望」]『京都帝国大学新聞』273、10月20日

トハチエフスキー事件『ホームユニオン』4-11、11月1日

三国協定の現実的意義『早稲田大学新聞』90、11月24日

伊国と防共協定 その参加と反英運動の効果『福岡日日新聞[夕刊]』11月19～26日

三国防共協定の成立『ホームユニオン』4-12、12月1日

団体人格の再建『法政研究』8-1、2、12月30日、1938年4月30日

1938(昭和13)年

对支政策論『外交時報』794、1月1日

防共戦線と人民戦線との対立『加哇新聞』1675、1月1日

現代日本政治の基本的動向『中央公論』53-1、1月1日

防共戦線と人民戦線との対立『大北日報』1月12、14、17、18日

昭和十三年の政治展望『ホームユニオン』5-1、1月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

政党合同論『九州日報』1月3、4日

【具島兼三郎著「英ソ親善の経済的基礎」の推薦文】『自由』2-2、2月1日

政党はどうなる『ホームユニオン』5-2、2月1日

教会と国家との関係『新興基督教』90、3月1日

現代政治の貧困『中央公論』53-3、3月1日

長期戦への歩み『ホームユニオン』5-3、3月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

全体主義と政治—国家総動員法案に寄せて—[「革新原理としての全体主義」]『日本評論』13-5、4月1日

国家総動員『ホームユニオン』5-4、4月1日

現代学生の社会的役割『理想』83、4月1日[室伏高信編『現代学生は何を為すべきか』(四谷書房、1940)収録]

政治における力について『都新聞』4月10～13日【1力の支配性、2党派の対立、3微妙な関係、4紛糾の原因】

最近の社会大衆党の批判『改造』20-5、5月1日

独塊合併と英国「ホームユニオン」5-5、5月1日

新党問題の基底 政権と大衆の問題『早稲田大学新聞』103、5月4日
官吏制度の政治的意義 政策原理確立の要求『京都帝国大学新聞』278、5月5日
[「入門書推薦」]『九州帝国大学新聞』180、5月20日
不安と創造『開拓者』33-6、6月1日
対支中央機関の新設『ホームユニオン』5-6、6月1日[『東亜の政治的新段階』収録]
民族主義と国民主義『帝国大学新聞』723、6月6日
対支中央機構と行政機構の改革問題『外交時報』805、6月15日
挙国一致態勢の整備とその意義『九州帝国大学新聞』182、6月20日
二十世紀の民族『日本評論』13-8、7月1日
挙国一致内閣の成立『ホームユニオン』5-7、7月1日
地方自治制の現代的意義[「地方局の東京都制案を評す」]『都市問題』27-2、8月1日
文と人『ホームユニオン』5-8、8月1日
大学の変遷[「一日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』8月10日
固有名詞[「一日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』8月21日
現代日本の課題と青年基督者の責任『開拓者』33-9、9月1日
張鼓峰事件『ホームユニオン』5-9、9月1日
チェコをめぐる英、仏、ソ連[「風雲下のチェコスロバキア」]『ホームユニオン』5-10、10月1日
選挙原理の変化[「一日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』10月12日
全体主義『同志社新報』29、10月20日
対支院と東亜新国家形態[「新支那建設への視角」]『政界往来』9-11、11月1日
宇垣外相の辞任『ホームユニオン』5-11、11月1日
神的絶対と人的実践『社会的基督教』8-10、11月5日
単一政党の胎動『早稲田大学新聞』121、11月9日
統帥権の独立[「一日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』11月13日
政党今後の進路—国民組織的要請とその方法—『帝国大学新聞』740、11月14日
挙国一致と近衛内閣の動向『関西学院新聞』148、11月20日
神的絶対と人的実践『開拓者』33-12、12月1日
政治—挙国運動の発展性—『ホームユニオン』5-12、12月1日
倫理的・宗教的及び政治的实践『社会的基督教』8-11、12月5日
独裁政治の合法化[「回顧と展望 国内政治」]『京都帝国大学新聞』290、12月20日

1939(昭和 14)年

- 一九三九年の内外情勢[「時評」]『開拓者』34-1、1月1日
- 国家総動員法について その憲法理論『水道協会雑誌』68、1月1日
- 国民再組織の理想と方法『知性』2-1、1月1日
- 立憲政治の変貌 下からの大衆組織運動へ期待[「内外政治経済の動向 国内政治」]『帝国大学新聞』747、1月1日
- 非常時性の認識 総動員法の日本の特性『福岡日日新聞』1月1、2日
- [「1. 長期の努力によつて出来た事 2. 長期にわたつて建設したい事」]『婦人之友』33-1、1月1日
- 国内改革より東亜再建へ[「回顧と展望」]『九州帝国大学新聞』192、1月5日[『東亜の政治的新段階』収録]
- 国家総動員法と憲法第三十一条『公法雑誌』5-1、1月5日
- 『畸人十篇』と篤胤[「一日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』1月20日
- 英国の老衰[「時評」]『開拓者』34-2、2月1日
- 平沼内閣に与ふ『日本評論』14-2、2月1日[『東亜の政治的新段階』収録]
- ウクライナ問題と戦争[「時評」]『開拓者』34-3、3月1日
- 基督教主義学校の宗教教育は必ずしも不徹底に非ず『新興基督教』102、3月1日
- 宗教団体法の成立を喜ぶ『基督教世界』2868、3月16日
- 国論の統一[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』3月29日
- 再び英蘇の接近[「時評」]『開拓者』34-4、4月1日
- 国防国家と革新政党『改造』21-4、4月1日
- 全体主義について『理想』95、4月1日
- 汪兆銘と支那事変[「時評」]『開拓者』34-5、5月1日
- 「国防国家」と資本主義[「世界危機に対処する日本国家の諸問題」]『革新』2-5、5月1日
- 政治学[「入門案内」]『九州帝国大学新聞』198、5月5日
- 征く兵隊と還る兵隊[「時観」]『北海タイムス』5月14日
- 稍々明かになりつつある事変の帰趨『九州帝国大学新聞』199、5月20日[『東亜の政治的新段階』収録]
- 人権新説[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』5月25日
- 欧州と極東[「時評」]『開拓者』34-6、6月1日
- 東亜新秩序完成のための政治的方法論『関西学院新聞』154、6月5日
- 東亜新秩序論『一橋新聞』289、6月10日
- 資本主義と計画経済—国防国家の抬頭と計画経済への発展性—『早稲田大学新聞』144、6月28日
- 英国の退却[「時評」]『開拓者』34-7、7月1日
- 時局と革新—事変の教訓(その二)—『日本評論』14-7、7月1日[「事変の教訓」と改題]『東亜の政治的新段階』収録]

階』収録]

大学における研究自由の限界『理想』98、7月1日

文化交流[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』7月12日

日本の認識[「窓外」]『新愛知[夕刊]』7月22日

東亜永遠の平和の基礎としての協同体『国民新聞』7月25～28日[『東亜の政治的新段階』収録]

東亜協同体論[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』7月26日

米國輿論の好転[「時評」]『開拓者』34-8、8月1日

戦争と国家—国防国家に就いての解説的叙述—『革新』2-8、8月1日

冷静第一[「東京会談への要望」]『中央公論』54-8、8月1日

外蒙国境紛争と日英会談—時局雑感—『文芸春秋』17-15、8月1日

英国の退却とその限界『福岡日日新聞』8月4、5日[『東亜の政治的新段階』収録]

新東亜の建設と青年基督者の使命『開拓者』34-9、9月1日

三民主義の発展としての東亜協同体『東亜解放』1-2、9月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

欧州戦争を繞る諸問題『九州帝国大学新聞』206、9月30日

[「良書推薦」]『開拓者』34-10、10月1日

阿部新内閣の性格『政界往来』10-10、10月1日

欧州戦争と日本の対外政策『日本評論』14-10、10月1日

汪氏について『日本学芸新聞』73、10月5日

欧州戦争を繞る伊蘇の動向『經濟情報 政経篇』14-22、10月10日

[「欧州大戦の頃 ハガキ回答」]『日本読書新聞』97、10月15日

脚下照顧[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』10月15日

同志社精神の検討『同志社新報』40、10月20日

加田哲二著“東亜協同体論”[「読書室」]『日本読書新聞』100、11月15日

永遠の戦ひか恒久の平和か『国民新聞』11月19、21～25日[『新東亜の展望』(国民新聞社、1940年3月25日)収録]

汪政権と經濟合作[講演速記]『一橋新聞』298、11月25日

新東亜の建設と信仰の再建『開拓者』34-12、12月1日

汪精衛の日支和平論『公論』2-10、12月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

汪精衛と新支那の陣痛[「時の問題・人」]『婦人之友』33-12、12月1日

永久闘争か恒久平和か『世界週刊』2-46、12月2日[『東亜の政治的新段階』収録]

三民主義批判『国民新聞』12月2、4～6日[「支那民族運動の段階的特徴」と改題『新東亜の展望』(国民新聞社、1940年)、原題のまま『東亜の政治的新段階』収録]

法幣[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』12月15日

日支合作案骨子 両国資本主義の特殊性と専門委員制度『九州帝国大学新聞』211、12月20日[『東亜の政治的新段階』収録]

1940(昭和15)年

汪精衛と重慶政府『外交』425、1月1日[「汪精衛氏と重慶政府」と改題『東亜の政治的新段階』収録]

基督教徒と新東亜の指導性『新興基督教』112、1月1日

政治における国民的基礎—新世界観の確立—『中央公論』55-1、1月1日

国民より指導者出でよ 若き汪政権の将来性に期待[「国際政治経済の動向 外交」]『帝国大学新聞』792、1月1日

日支合作論序説『東亜解放』2-1、1月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

「二千五百年代を顧みて二千六百年代を想ふ」『婦人之友』34-1、1月1日

新春政変譜『福岡日日新聞』1月5、7、8日

「一、現下の『海外』へ何を放送すべきか 二、現下の『満支』へ何を放送すべきか」葉書回答『放送』10-1、1月15日

青年に呼びかける言葉『理想』105、2月1日

東洋文化の存在を肯定する[「“東洋”は存在するか」]『日本学芸新聞』80、2月5日

汪政権具体化の前途『文芸春秋』18-4、3月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

新政権と対重慶方策『改造』22-5<時局増刊4>、3月3日[『東亜の政治的新段階』収録]

興亜週評『週刊朝日』37-10、3月3日[「事変の認識」と題して『東亜の政治的新段階』収録]

興亜週評『週刊朝日』37-11、3月10日[「和平建国の道」と題して『東亜の政治的新段階』収録]

闇取引[「窓外」]『新愛知[夕刊]』3月16日

興亜週評『週刊朝日』37-12、3月17日[「非政権和平運動」と題して『東亜の政治的新段階』収録]

闇取引[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』3月17日

*革新の在り方—自由主義最後の弔鐘は鳴り響けど革新の時期来らず—『興亜週報』3月24日

反共和平の旗の下に『週刊朝日』37-14、3月31日[「汪精衛氏の宣言と阿部大使の特派」と題して『東亜の政治的新段階』収録]

興亜週評『週刊朝日』37-14、3月31日[「汪政権成立とその後に来る者もの」と題して『東亜の政治的新段階』収録]

汪政権の成立と事変処理の新段階『中央公論』55-4、4月1日[英訳：A New Phase of the China Affair, *Contemporary Japan*, Vol. IX, No. 6. A New Phase of the China Affair, *Living Age*, Sept., 1940. 和文・英文ともに『東亜の政治的新段階』収録]

法幣の現状『東亜問題』2-1、4月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

南京新政権と日本の新体制『改造』22-8、5月1日

国内体制を改革せよ『改造』22-8、5月1日[座談会：神尾茂、杉村広蔵、馬淵大佐、間中佐、鶴見憲、松岡孝児、田知花信量、和田明雄]

更正支那の課題『中央公論』55-5、5月1日[4月4日座談会(於上海佻蘭西租界伊藤公館):三木清、杉村
広蔵、伊藤武雄、中西功、立石峻蔵、山崎進、三輪武、石川正義、名和統一、具島兼三郎、内ヶ崎度二
郎、畑中繁雄][『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版,2018年)収録]

共同文化の問題—新中央政權成立に関して—[「日支合作の問題」]『日本評論』15-5、5月1日[「日華共同
文化の問題」と改題『東亜の政治的新段階』収録]

柳河人としての先生『基督教世界』2928<海老名弾正先生永眠三周年記念号>、5月16日

支那に於ける最近の情勢『九州帝国大学新聞』219、5月20日[『東亜の政治的新段階』収録]

南京[「隨筆」]『週刊朝日』37-23、5月26日

和平運動の将来(現地座談会)『大陸』3-6、6月1日[4月21日座談会(南京東亜倶楽部):伝武説、趙正平、
諸青来、林柏生、周隆痒、湯澄波、胡蘭成、郭秀峯、和田明雄][「南京座談会」と改題『東亜の政治的新
段階』収録]

改組還都と日支關係の将来[「講筵十二ヶ月」]『婦人之友』34-6、6月1日

新政府樹立直後の政治情勢『現地報告』33、6月10日[『東亜の政治的新段階』収録]

[「現下日本ジャーナリズム批判」]『大陸』3-7、7月1日

脚下照顧[「太平門」]『東亜解放』2-7、7月1日

[「日華文化の交流と提携」]『日本学芸新聞』89、7月10日

政治学は如何に研究さるべきか[「入門書」講座(9)政治篇]『日本読書新聞』125、7月15日

政治概念に就いて—大石教授及び堀教授の教を乞ふ—『法政研究』10-2、7月15日

アジアとアジア人のために『大陸』3-8、8月1日[『東亜の政治的新段階』収録]

[「かくあるべし新体制 葉書回答」]『中央公論』55-8、8月1日

新体制運動を展望す『日本評論』15-8、8月1日

[「新体制への要望」]『日本評論』15-8、8月1日

周仏海先生に与ふ[「支那・具眼の士に与ふ」]『福岡日日新聞』8月9、10日

ブレイントラスト[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』8月27日

新体制の任務[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』9月20日

ソ連親日化[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』9月25日

文化も神秘を許さず[「文化における科学精神」]『日本学芸新聞』93、9月10日

福音と現代世界『開拓者』35-10、10月1日

[「識者の眼に映じた学生生徒の長所と短所」]『新若人』1-2、10月1日

国防国家の解釈[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』10月6日

新政治体制の目標『經濟倶楽部講演』昭和15年第25輯、10月16日

古典と思索[「私の読書法」]『福岡日日新聞』10月16日

新体制と議会『福岡日日新聞』10月21～23日

*民族独立運動興其方策[10月29日講演於南京中央大学]『中華日報』10月31日[『東亜の政治的新段階』

収録]

ソ連は何処に向ふか[「火焰道場」]『東亜解放』2-11、11月1日

大政翼賛運動と原理的問題『九州帝国大学新聞』227、11月7日

日支国交の新段階『福岡日日新聞』12月2～4、6、8日[露語訳『東方評論』1941年3月、『東亜の政治的新段階』収録]

1941(昭和16)年

国民政府建設の諸問題『大陸』4-1、1月1日

[「近頃快心の事」]『婦人之友』35-1、1月1日

大陸と時局の現段階[「大陸展望」]『早稲田大学新聞』199、1月15日

重慶に対する経済的攻勢論『日本評論』16-2、2月1日[『中日文化』1-1、1941年3月に中国語訳掲載。『東亜の政治的新段階』収録]

大陸の経済機構と現段階『外地評論』4-2[29]、2月1日

日ソ中立条約と事変処理[「文化評論」]『帝国大学新聞』855、4月5日

国防国家の概念・政策・構造—非常的政治原理としての国防国家—『法政研究』11-2、4月25日[若干の修正のうえ『日本政治史新稿 第二分冊』第5章第4節「国防国家」に収録]

国民政府の新課題『改造』23-9、5月1日[中国語訳：国府之新任務『到中日全面和平之路』<訳叢叢書 第1>中日文化協会出版組、1942年]

事変処理方針の確立[「時評」]『東洋経済新報』1972、5月24日

蘇連極東政策の基本原則『大陸』4-6、6月1日

本多駐支大使に望む[「我世界外交への課題」]『改造』23-12<時局版19>、6月2日

*南洋と支那問題[「時観」]『福岡日日新聞[夕刊]』6月1日<発禁処分>

汪精衛主席を迎ふ[「時評」]『東洋経済新報』1976、6月21日

[「中国の知識階級に与ふ」]『東亜解放』3-7、7月1日

国防国家論序説『日本評論』16-7、7月1日

国家的管理経済[「時評」]『東洋経済新報』1980、7月19日

内閣更迭[「政治時評」]『九州帝国大学新聞』239、7月20日

独蘇戦争と日支全面和平の前途『大陸』4-8、8月1日

仏印進駐の成功[「時評」]『東洋経済新報』1984、8月16日

中支新幣制論『世界週刊』4-35、8月31日

政治学としての地政治学について『理想』125、10月1日

国家本質の基本的理解一個と全、法と力の問題を中心に—[「国家への二論策」]『早稲田大学新聞』228、10月29日

[「良書の薦め」]『開拓者』36-11、11月1日

東亜問題の核心[「東亜展望 政治」]『大陸』4-11、11月1日
矛盾と統一としての政治『日本評論』16-11、11月1日
強力政治の構造[「強力政治と国民」]『中央公論』56-12、12月1日

1942(昭和17)年

大化改新論『中央公論』57-1、1月1日
部民と奴婢『法政研究』12-1、1月1日
支那民衆に与ふ『世界週刊』5-1、1月3日
日本政治の理念 翼賛選挙と国民の政治的動員『一橋新聞』346、4月25日
総選挙と新議会の構成 正しき下情上通の機関へ『帝国大学新聞』900、5月11日
孫逸仙[「国民主義思想家評伝」]『改造』24-8、8月1日
支那の経済建設論『経国』9-8、8月1日
南京と重慶『支那』33-8、8月1日
答訪使に呈す『大陸新報』9月26日
生活倫理の発展的課題[「新日本倫理の確立」]『科学文化』2-11、11月1日
戦時的要請と国防国家—黒田覚教授の所説にこたふ—『帝国大学新聞』923、11月16日
政治史に於ける発展過程の一考察 国史上の“荘園農奴”について『一橋新聞』357、11月25日

1943(昭和18)年

長期戦の性格一変 イデオロギー闘争の揚棄を望む[「国内政治経済の動向 政治」]『帝国大学新聞』928、1月1日
第八十二議会の問題『早稲田大学新聞』302、6月30日
政治学の古典『学燈』47-7、7月5日
戦力増強への協力組織 東亜共栄圏の国家形式への考察『帝国大学新聞』955、9月6日
財政の堅実性[「推進」]『東京新聞[夕刊]』10月19日
餞けの言英『開拓者』38-11、11月1日
戦争非常時の蔵存 『政治政策』革新性の超克へ『帝国大学新聞』965、11月22日

1944(昭和19)年

中国の人々に訴ふ『大陸新報』1月1日
*精神的な一致を一戦争政治における原理—『同盟新聞』1月
緊急独裁に就て 非常時局と国民運動『帝国大学新聞』978、3月13日
編輯部各位に 非常性と緊急性について『帝国大学新聞』980、4月10日

*銃後武装化の原理としての国防国家『国防国民』17-5、6月

1945(昭和 20)年

民族協同体的国家の建設—敗戦日本の今後の新国家原理—『大学新聞』42、10月21日

統制なき民主主義『公論』8-10、12月1日

法治国家か経済国家か『新生』1-2、12月1日

1946(昭和 21)年

民主主義実現の方途『時局情報』10-1、1月1日

消費生活を通じての大衆組織化の急務『潮流』1-2、2月1日

日本政治経済の変革—その過程と動向—『評論』1、2月1日[座談会：森戸辰男、向坂逸郎、東浦庄治、宇野弘藏]

随想『小天地』1-1、3月1日

世界史におけるアメリカ『新人』25-12、3月1日

民主戦線の政権と政策[「天皇と民主主義」]『真日本』1-1、4月1日

*統制を人民の手へ『夕刊新大阪』56、4月1日

主権理論の問題『小天地』1-3、5月1日

わが国民の政治的能力『世界文化』1-4、5月1日

民主主義革命と新民主主義『創建』1-5、5月1日

政治=権力 民主主義とは『真実』1-1、6月1日

ファッション台頭の可能性『評論』4、6月1日

欧米諸国に於ける民主主義『基督教文化』6、7月1日

*参議院について『第一新聞』7月27日

ソ連邦の基本法『法律新報』731、8月1日

国体論の抹殺『小天地』1-7、9月1日

現在における基督教学生運動の任務『開拓者』41-1[復刊1号]、9月15日

基督教と共産主義『基督教文化』8、9月25日[『基督教と共産主義』収録]

ゼネストと反動[「人民評論」]『夕刊新大阪』242、10月4日

*新憲法の特徴『第一新聞』10月23日

参議院の構成『小天地』1-9、11月1日

憲法の検討 主権『日本週報』39・40・41、11月3日

救国者の類型論 スターリンとヒトラーの相違『自由国民』19-5、11月10日

議会解散[「人民評論」]『夕刊新大阪』290、11月22日

神学的権威主義と科学的民主主義『国際連合』1-2、12月1日
教育会と教員組合[「人民評論」]『夕刊新大阪』314、12月16日

1947(昭和22)年

英雄主義の敗退 秀吉大陸遠征の原因『創造』17-1、1月1日
選挙を民主主義のために[「時評」]『読売新聞』1月9日
社会主義講座 社会主義の政治学『社会思潮』1-1、2、2月1日、3月1日[『基督教と共産主義』収録]
カール・マンハイムのこと『評論』10、2月1日
私有財産の否定と社会秩序の建設『講演時報』531、3月25日
宗教の反動性[「時評」]『開拓者』41-3[復刊3号]、4月1日
第二次総選挙と政局『時代』2-4、4月1日
選挙を民主主義のために[「時評」]『読売新聞』4月9日
総選挙と日本政治の民主化『東洋経済新報』2267、4月12日[3月20日座談会：永野重雄、杉村廣蔵、山田秀雄、齊藤幸治]
政治学 変革期の政治の諸問題[「学界時評」]『季刊大学』1-1、4月25日
総選挙と日本の民主化『世界文化』2-2、5月1日
神道及神社宗教をどうする[「時評」]『開拓者』41-4[復刊4号]、6月1日
政局の困難と政策の転換『時代』2-6、6月1日
民主主義と議会政治『経済』1-6、7月1日
連立内閣論『実業之日本』50-7、7月1日
民主政治の理想と現実『文芸春秋』25-6、7月1日
基本的人権の発展『法律新報』736、7月1日
生活と文化の再建『同盟講演時報』20-21、7月15日
神と階級闘争[「時評」]『開拓者』41-5[復刊5号]、8月1日
教育精神の民主化『教育科学』2、8月1日
いわゆる健全なる保守党論『時代』2-7、8月1日
社会主義と基督教[「時評」]『開拓者』41-6[復刊6号]、9月1日
[「第五十六回夏季学校に望む」]『開拓者』41-6[復刊6号]、9月1日
宗教と社会主義『世界国家』1-4、9月1日
危機の政党『政党』1-2、9月10日
社会主義実現の前提『時代』2-9、10月1日
日本人と民族意識『社会』2-8、10月1日
ある牧師からの手紙[「時評」]『開拓者』41-8[復刊8号]、11月1日

国体と主権について『季刊法律学』2、12月1日

議会と政党『地上』1-8、12月1日

1948(昭和23)年

「平和のために何をなすべきか何をなしつゝあるか」『婦人之友』42-1、1月1日

福音と文化『新文化』2-10、3月1日[『基督教と共産主義』収録]

小党分立か二大政党か『朝日評論』2-5、5月1日

政治権力の分析『社会圏』2-5、5月1日

新憲法下の一年『第一新聞』5月3日[座談会：宮沢俊義、河村又介、木下半治]

憲法第二年目へ『岐阜タイムズ』5月4、5日[座談会：宮沢俊義、河村又介、木下半治]

南朝鮮総選挙を語る『自由朝鮮』2-5、5月25日[座談会：佐野学、宍戸寛、植村謙、韓何然、鄭泰雲]

世界国家の可能性『世界国家』2-4、6月1日

現代における四つのフェラシー『開拓者』42-5、7月1日[『基督教と共産主義』収録]

渡辺先生に呈す「ある上奏分について」について[「文化」]『東海夕刊』8月26日

キリスト者の社会的実存『基督教文化』29、9月1日[座談会：赤岩栄、隅谷三喜男]

天皇制の問題[「文化」]『東海夕刊』9月17日

[「執筆者通信」]『日本読書新聞』458、9月22日

共産主義に対する基督信者の立場『開拓者』42-8、10月1日[『基督教と共産主義』収録]

政治教育のしかたについて『教育と社会』3-11、11月1日

明治維新の経済転換過程『商工教育資料』2-11、11月1日

佐々弘雄君と私『九州大学新聞』278、11月30日

キリスト教と政治『理想』188、12月1日[『基督教と共産主義』収録]

国家および政治の本質について—大石教授に答える—『政治学研究』2、12月10日

社会科学・政治学の方法および法則『政治学研究』2、12月10日[ゼミナール：伊豆公夫、森宏一、古在由重、秦玄龍、山之内一郎、鈴木安藏]

1949(昭和24)年

基督教と社会主義『叡智』4-1、1月1日[『基督教と共産主義』収録]

不正取引相次ぐ政界—総選挙と野党の任務—[「くすぶる日本の民主革命—新しい“危機”を分析する—政治」]『九州大学新聞』279、1月1日

アメリカは撤退するか『日本週報』114・115、3月1日

政党と公約『改造』30-4、4月1日

具島教授[「書齋」]『叡智』4-3・4、4月2日

赤岩牧師を支持する[「赤岩牧師の問題」]『基督教文化』36、5月1日[『キリスト教と革命 二つの世界観の対立と交流』(北隆館、1949年7月30日)収録]

国際平和への誓約[「日曜随想」]『西日本新聞』5月8日

民自党の立憲的独裁『九州大学新聞』284、5月15日

権力と暴力の限界 九大法文学部における記念講演より『九州タイムズ』6月20日

民族主義の限界『法律文化』4・5・6、7月15日

古典を重視せよー学史の研究こそ必要ー[「新制大学入学生諸君のために 政治学」]『九州大学新聞』288、9月1・15日

[「執筆者だより」]『図書新聞』10、9月6日

[「日本共産党への注文(葉書回答)」]『世界評論』4-10、10月1日

海老名弾正[「明治基督教人物評伝」]『開拓者』43-11、11月1日

1950(昭和25)年

講和問題と日本の立場[1949年12月10日講演速記於佐賀市国際連合支部発会式]『明』[佐賀県中央公民館編・刊]15、1月1日

政党的独裁から大衆政治へ[「1950年の世界と日本」]『日本評論』25-1、1月1日

教育の社会性『教育と社会』5-1、1月2日

“保守”に巣喰う無知 科学の弾圧には政治的防衛が必要『九州大学新聞』291、1月下旬

進歩と自由は何処にあるか『読売評論』2-2、2月1日

政治社会科学の方法『法政研究』17-1・2・3・4、3月31日

講和と神意『開拓者』44-5、5月1日

自由党批判『朝日評論』5-6、6月1日

告別式に列して『九州大学新聞』294、9月20日

戦争を合理化する自由主義 歴史は自覚した大衆によって『九州大学新聞』297、12月10日

1951(昭和26)年

[「日本の危機に備えてー各界の名士に聴くー」]『月刊読売』9-3<号外版>、2月5日

報道の民主性を要求する[「小さくない問題」]『中央公論』66-3、3月1日

政治学[「法律学の学び方」]『法律時報』23-4、4月1日

司令官更迭と講和問題『日本及日本人』2-6、6月1日

エンゲルスの『起源』の序文における二三の問題(『政治学序説 補遺』)『法政研究』19-1、6月30日

置き捨てられた国民 政府、講和手続に国会を無視『学園新聞』607・608、7月1日

日本の立場をアメリカ知識人に訴う 故国へ帰る友に送る手紙『改造』32-9、8月1日

講和手続に憲法上の疑義あり『経済往来』3-9、9月1日
アメリカが支配する平和[「講和全権にもの申す」]『日本週報』185、9月1日
[「講和に対する意見・批判・希望」]『世界』70、10月1日
国家の独立—対内政治的意義—『思想』328、10月5日
誰のための政治『講演時報』670、10月25日[座談会：岩淵辰雄、山川均]
[参考人意見]『第十二回国会参議院 平和条約及び日米安全保障条約特別委員会会議録』3、10月25日
国民のための政治『改造』32-12、11月1日[鼎談：岩淵辰雄、山川均][『山川均全集 第20巻』(勁草書房、2001年)収録]
キリスト教的人間像『ニューエイジ』3-11、11月1日
新しい党づくり『社会新聞』317、11月5日[座談会：清水幾太郎、都留重人、高桑純夫、小松清、勝間田清一、稲村順三]
講和と日本の進路—自衛権の憲法論争をめぐる—『世界』72、12月1日
藤間生大氏著「国家権力の誕生」に寄せて[「紹介と批判」]『法学志林』49-2、12月10日
政治権力の構造『日本政治学会年報 政治学』<1951年度日本政治学会年報>12月20日

1952(昭和27)年

独立後の政党人に寄す『改造』33-3、2月1日
行政協定の違法性『経済往来』4-4、4月1日
ヒューマンイズムの危機といわゆるファシズムについて『理想』228、5月1日
再軍備についての対話『世界』77、5月1日
独立政治の暴力 わたしは訴える『平和』1、6月1日
独立日本の条件—国際政治より見た武力問題—『九州大学新聞』319、6月5日
現代日本の政治意識[「平和と日本社会」]『教育』2-7、7月1日
岡倉古志郎著日本再軍備 資料をもって語るアメリカの対日政策『日本読書新聞』657、8月13日
前車の轍を踏むな『学園新聞』661、8月28日
公明・暴力・人民[「家庭」]『[大阪]朝日新聞』9月26日
吉田内閣の末路と総選挙の意義[「再軍備につらなる総選挙」]『改造』33-14、10月1日
[「総選挙に対する意見・批判・希望」]『世界』82、10月1日
政治学の古典に没頭 いわゆる“遍歴”は私にはない[「私の読書履歴」]『日本読書新聞』665、10月13日
[日本読書新聞編集部編『私の読書遍歴 続』(黎明書房、1953年)収録]
[「読者通信」]『世界週報』33-33、11月21日
Political Ideology and the Science of Politics『政経論叢』2-2、12月4日

1953(昭和 28)年

*自己反省に寄せて『平和』2-1、1月1日

歴史的変革期における教育者の任務について[文責在記者]『広島教育』37、2月1日

歴史的発展段階を規定する力としての「生産力の欠乏」『政治研究』1、2月20日

ファシズムに道を開く「自由」『改造』34-4、4月1日

「平和の維持に関する意見・批判・希望」『世界』89、5月1日

日本のたいはい どうしたら改善できるか[「学芸」]『毎日新聞』6月11日

社会党の現実的戦術について『広島教育』38、7月1日

現代国家理論の趨勢と課題『理論』21、7月

私たちの読書 広島にて『図書新聞』203、7月11日[座談会の司会]

[「執筆者通信」]『日本読書新聞』708、8月17日

一度あることは二度ある『基督教世界』3043、10月10日

基地問題に寄す『内灘』を読んで『図書新聞』217、10月17日

政治変革理論の方法について—猪木正道氏の「政治変動論」を読んで—[「書評」]『季刊法律学』16、11月10日

教育の政治的中立について『広島教育』41、12月15日

1954(昭和 29)年

現代の政治と基督者の責任『ニューエイジ』6-1、1月1日

二月の時評 深まる危機[「学芸」]『朝日新聞[西部版]』2月28日

三月の時評 発育不足の『青年将校』—MSA 受諾と原爆問題—[「学芸」]『朝日新聞[西部版]』4月2日

[「学生自身の中から盛り上りを アンケート平和会議にのぞむ」中のアンケート回答]『一橋新聞』521、4月30日

*科学を生活の中へ『広島大学人会会報』4、5月9日[『今中次麿 生涯と回想』収録]

五月の時評 首相の外遊中に陰謀 新党運動自由党乗取りが目的[「学芸」]『朝日新聞[西部版]』6月2日

六月の時評 人民はもうだまされぬ[「学芸」]『朝日新聞[西部版]』6月30日

科学は正しきが故に支持される『九州大学新聞』357、7月25日

政治と正義『理想』256、9月1日

政治学の古典全集 古典をはなれて理論はない[「出したい本・出したい研究—専門家を訪ねて」]『図書新聞』265、9月25日

近代国家観の成立『歴史教育』2-10、10月1日

十月の時評『朝日新聞[西部版]』11月2日

11月の時評 首相のズレた意識[「学芸」]『朝日新聞[西部版]』12月2日

十二月の時評 鳩山内閣の成立—党人脈と官僚派の争い[「学芸」]『朝日新聞[西部版]』12月28日

1955(昭和30)年

基督者の平和攻勢『開拓者』50-1、1月1日

官僚術策に倒る『世界』110、2月1日

歴史の発展に関する理論『社会科研究』3、2月20日

総選挙に臨む国民の態度『中央公論』70-3、3月1日

政治権力の歴史的構造を規定するもの『法政研究』22-2・3・4、3月20日[『政治権力の歴史的構造 続政治学序説』収録]

イデオロギーとしての政治の概念—民族と階級の総合としての政治—『政経論叢』<広島大学政経学会>5-1、6月30日[「イデオロギーとしての政治」と改題『政治権力の歴史的構造 続政治学序説』収録]

両派社会党分裂の根底にあるもの『選挙』8-8、8月1日

二人の新人の仕事—政治思想史では森教授の著書[「十年の収穫<書籍> 政治」]『図書新聞』309、8月13日

フアンズムのころ『九州大学新聞』378、11月25日

政治権力の原始的起原『政経論叢』<広島大学政経学会>5-3・4、12月25日[『政治権力の歴史的構造 続政治学序説』収録]

1956(昭和31)年

アジア的デスポチズム『政経論叢』<広島大学政経学会>6-1、4月25日[「古代権力とアジア的デスポチズム」と改題『政治権力の歴史的構造 続政治学序説』収録]

小選挙区制と二大政党 民主主義のルールを破るな『朝日新聞[西部版]』3月23日

私の政治学の歩み—方法二元論の克服のために—『法学セミナー』3、6月1日

古代政治権力の崩壊—封建制の成立—『政経論叢』<広島大学政経学会>6-2、8月25日[『政治権力の歴史的構造 続政治学序説』収録]

歴史の逆行を阻止 ソ連軍のハンガリー介入[「東欧問題に見る激動する世界情勢」]『九州大学新聞』397、12月20日

1957(昭和32)年

引きつける魅力 丸山真男著『現代政治の思想と行動』上 方法論に問題はあがるが[紹介と批評]『図書新聞』382、1月19日

1958(昭和33)年

憲法研究会の成立に寄せて[「文化」]『アカハタ』6月18日

*花陵会の今は昔『花陵会報』<熊本大学基督教青年会>、月日未詳[『今中次麿 生涯と回想』収録]

1959(昭和 34)年

古い警察の思い出『佐賀警友』14-7、7月15日

創立十周年記念号発刊に際して『佐賀大学法経論集』7-1・2、12月15日

政治における理論と実践の統一『佐賀大学法経論集』7-1・2、12月15日

1961(昭和 36)年

平和と民主主義『九州大学新聞』455、1月25日

理工科万能と人文社会『群像』16-5、5月1日

1963(昭和 38)年

近ごろ思うこと『経済往来』15-2、2月1日

私の人材教育『月刊保険評論』15-4、3月25日

1964(昭和 39)年

大学経営の秘訣『同志社時報』10、6月20日

1967(昭和 42)年

人の上に人を置かず人の下に人を置かず[「勇気ある言葉」]『毎日新聞』2月19日

明確なファシズム論 練達な論理と文章[丸山真男『現代政治の思想と行動』の書評]『図書新聞』927、9月16日

1968(昭和 43)年

国家の原始的起源に関する国家征服説について『日本学士院紀要』26-1、3月12日

同志社を語る『同志社時報』31、8月5日[座談会：具島兼三郎、高木暢哉、高木幸二郎、吉田法晴、住谷悦治]

近代日本における思想と政治—明治期を中心として—『FUKUOKA UNESCO』4<第2回九州国際文化会議特集>、10月[討議：今中(司会)、武田清子、オーティスケリー、竹原良文、丸山真男]

1969(昭和 44)年

モルガン、リバーズおよびブリッフォールの原始集団婚論『法政研究』35-6、3月25日

1971(昭和 46)年

氏族制度と政治の原始的起源の問題『日本学士院紀要』29-2、6月12日

1972(昭和 47)年

『年報』の発刊にあたって『平和教育研究』1、6月1日

戦争の歴史的形態『平和教育研究』1、6月1日

1974(昭和 49)年

社会階級概念について『日本学士院紀要』32・1、3月12日

1975(昭和 50)年

学究への道程『京都新聞』10月30日[『同志社創立100周年記念 日本の近代化と同志社』(京都新聞社、1975年)、『今中次麿 生涯と回想』収録]

1978(昭和 53)年

科学者のあゆんだ道 今中次麿氏に聞く『日本の科学者』13・5～8、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日[「今中次麿 天皇制とたたかうデモクラシーの政治学者」と改題、日本科学者会議編『科学者のあゆんだ道 上』(水曜社、1982年7月20日)収録]